

## 大切な水を守るために

毎年夏になると、川に行く。魚釣りをするのだ。私の兄は、川魚が好きだ。川魚の名前や生態をよく知っている。そんな兄と一緒に釣りに行くのだ。

兄が釣りをしている間に、私は石投げをしたり、きれいな石を探したりする。魚釣りのエサとなる川虫を捕まえることもある。もちろん私も釣りをする。さおがしなると、ドキドキしながら持ち上げる。一緒に魚が揚がってきたときは、とてもうれしい。

私がよく行く川は三つある。一つ目は、下市町の町の中を流れる秋野川だ。この川は、小学校の前を流れている。コイやオイカワがいる。二つ目は、吉野町の象ききの小川だ。山の谷間を流れる、細くて小さい川だ。この川には、カワムツやアブラハヤがいる。三つ目は吉野川だ。吉野川には、もつとたくさんの種

下市町立下市中学校 二年

堀之内 菜七

類の魚たちが住んでいる。

三つの川に住んでいる魚を比べると、象の小川が一番きれいな水ということがわかる。だから、象の小川のほとりに住んでいる祖母は、今も川の水を家に引いて使っている。しかし、大雨が降ると山水は土砂でにごってしまふ。そこで吉野町は、二十年ほど前に、簡易水道を設置してくれた。そのおかげで、祖母は一年中、安心して水を飲むことができる。吉野町の水道普及率を調べると、九十五パーセント以上だった。私が住んでいる下市町は、一〇〇パーセントだった。飲み水は、人が生活するうえで絶対に欠かせないものだ。吉野町も一〇〇パーセントになるように、取り組んでいるそうだ。また、祖母が住んでいる地区では毎年六月と八月に、川のそうじを行っている。私はそ

の理由を、ごみを拾ったり草をかつたりして自然を、守るためだと思っていた。夏になるとたくさんのが飛びかっているのはそのおかげだと思っていた。しかし父からは、もう一つ大切な理由があると教えてもらった。大雨で川が増水したときに、草やごみがたまって洪水になってはいけなからだそうだった。私は大勢の人たちが協力し合って、みんなを守ってくれていたということを知って、うれしい気持ちになった。

水について考えていると、小学校のときに習った吉野川分水のことを思い出す。吉野川分水とは、奈良盆地に住む人々の水不足を解消するために、始まった事業だ。大淀町にその立て看板がいくつかあるので、そこを車で通る度に大昔の人々が水を大切に分け合い、助け合っていたことを想像することができ、現在の私たちが吉野川の水をきれいにすることは、奈良盆地で暮らす人々のためにも役立つているのだといえる。

私には大切な川、大切な水を守るために何ができるだろう。まず「水を使いすぎない」ようにしたい。こまめに蛇口をしめようと思

う。次に「ごみを捨てない」ようにしたい。さらに、「洗剤を使いすぎない」ようにしたい。これらのことは自分だけではなく、家族や友達にも呼びかけていきたい。そしていつまでも、たくさんのお魚を守り続けていきたい。